

全なものである。

さてその原書も今は珍本で、古本屋へ行つても殆ど見當らない。幸に原本を得ても、その文字が讀みにくいといふよりも、用語が全く他の國語文法書と違つてゐて、誠に讀みにくく解し難いものである。更に解明の言ひ方が甚幽玄であり、晦澁であり、高尚であり、餘程よく落着いて靜讀冥想しなければ理解が出来ないので、多くの學徒も之を通覽しても、精讀することをしなかつたものである。

かゝる貴重な書が埋れてゐたのは、如上の理由であつたのだ。然るに今松尾氏の校註が出て、百年の恨を一掃することが出来たのは、國語界が今やその本質的根本的研究に向つてきた際に於て、眞に有意義な著述である。

最も嬉しいことは、ページの何處をあげても、一二三四の番號で、之は今の形容的志久活にあたるとか、助動詞にあたるとか、又終止形もしくは連體形にあたるといふことが知れるやうにしてあるから、讀者が所要のページを繙けば、その一節の意義は明白に理解されるやうになつてゐることである。之が凡例などに一まとめにして書いてあると、讀者は一々前の記事に溯つて比較しなければならぬのだが、重複反覆の勞を厭はず、毎節毎

松尾捨治郎氏校註「あゆひ抄」

あゆひ抄の著者富士谷成章は、夙に本居宣長翁が主勝間に於てその篤學の士たることを激賞されてゐる。即ちその著あゆひ抄は頗る有名なものであるから、國語學史の中で、この書の概綱は説かれてゐるが、何れも皆不完

頁に註を加へられた親切な仕方は、讀者の感謝すべき所である。

更にその註の中には、往々従ふべからずとして否定した所もあり、又卓見として賞揚した所もあり、又三矢松下二氏の所説なども比較して掲載されてゐるので、讀者をして十分その語法の眞義を熟知せしめる事が出来る。この點に於ても、著者の該博なる智識と、懇切なる指導とが窺はれるので、誠にありがたい著述である。

明治大正昭和の三代を経て、國語國文の隆盛なること國運の進展と共に伴隨してきたが、それは國文學の上であつて、國語學の方面は誠に遅々たるものである。今このあゆみ抄を精讀すれば、過去及現代の國語學者が研究してゐない所を深く究めてをり、又明治以降文法の大家の説の多くは、之から出發してをることがわかる。更に本書に由て現代國語學者の研究が、富士谷翁に比していかに恥づべきかを知るのである。本書は實に國語學史の中で燦として光を放つべきものであつたが、用言の難解と説明の高遠な點とで、學者の精讀否通讀すらもしなかつたものであるが、今や松尾氏の校註本が出て、初めて昭和の御代に光りを放つことになつたのである。

發行所大岡山書店は、由來營利的の出版をせず、専ら

學術的専門的の著述を刊行してきたのであるが、國語學の古書校註本としては、實に大岡山書店第一の好著である。苟も國語にたづさはる人々は、この校註本に由て裨益を受け啓發される所が多であることを信ずる。かくいふ評者の如きも、原本は一とほり通讀した積りであつたが、今この校註本を繙いてみて、今迄氣が付かなかつた大切な事項を多く知り得たのである。深く校註者松尾氏と、大岡山書店とに敬意を表する次第である。——高橋——（價二圓五十錢麻布區斧町一七六大岡山書店）